



# 平成30年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月11日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス  
 コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 グループ企画室長 (氏名) 松尾 俊幸

TEL 03-5651-8800

四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年11月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	146,443	4.1	2,594	115.9	2,993	65.6	1,595	5.5
29年2月期第3四半期	140,616	1.4	1,201	41.4	1,807	31.2	1,688	815.2

(注) 包括利益 30年2月期第3四半期 1,708百万円 ( %) 29年2月期第3四半期 12百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	24.71	
29年2月期第3四半期	26.17	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第3四半期	116,485	57,738	49.1
29年2月期	114,947	57,209	49.4

(参考) 自己資本 30年2月期第3四半期 57,181百万円 29年2月期 56,744百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期		10.00		10.00	20.00
30年2月期		10.00			
30年2月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	202,000	7.1	4,400	135.9	5,100	85.4	2,100	68.2	32.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期3Q	65,129,558 株	29年2月期	65,129,558 株
期末自己株式数	30年2月期3Q	580,157 株	29年2月期	608,107 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期3Q	64,537,980 株	29年2月期3Q	64,523,048 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年11月30日まで）の連結業績は、連結売上高が1,464億43百万円（前年同期比4.1%増）、連結営業利益は25億94百万円（前年同期比115.9%増）、連結経常利益は29億93百万円（前年同期比65.6%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は15億95百万円（前年同期比5.5%減）と減益になりましたが、これは前期に旧本社事務所譲渡による固定資産売却益を計上した影響によるものであります。

当社グループでは、10年先を見据えた長期ビジョン「NEW BEGINNINGS 2025」の実現を目指し、前期より「3ヵ年中期経営計画」を始動いたしました。当期を含むファーストステージの3年間は、セカンドステージ以降における成長のシーズを生み出す3年間と位置付け、「ひと・健康・テクノロジー」をキーワードに、「飲食業の再定義」を目指し、これまでの飲食業になかった新しい価値創造に向け活動してまいります。中期計画の2年目となる当期につきましては、主要セグメントである吉野家において、積極的な新商品開発を行い、既存店客数の拡大を目指します。国内では、はなまる・京樽を、海外においてはアジアを中心とした出店による成長・規模拡大を進めてまいります。また、セカンドステージを見据え、成長へ向けた実験・検証を積極的に行ってまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

#### [吉野家]

売上高は、735億54百万円と、対前年同期比0.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、冷凍牛丼の具などを販売する外販事業の売上高の増加に加え、Tポイントデータの販売実績をもとに、朝食時間帯の活性化策として「ハムエッグ定食」「釜揚げしらす定食」、夕食時間帯には「吉野家の晩ごはん」として「牛牛定食」「牛鯖みそ定食」を販売し、時間帯別のお客様の多様なニーズにお応えいたしました。また、冬の定番商品である「牛すき鍋膳」はテイクアウトのご利用に対応し、あわせて、ファミリー向け商品として初めて「牛鍋ファミリーパック」を販売し、お客様のご利用シーンの機会を創出したこと等によります。キャンペーン施策としては、グループ会社である「はなまる」との初めてのコラボ企画として「はしご定期券」を実施しご好評をいただきました。また、新規顧客層の獲得や生産性向上、従業員労働負荷の軽減を目的として、次世代店舗の実験を行っております。セグメント利益は、アルバイト時給の上昇や社会保険の適用拡大等による人件費の増加等があったものの、増収および売上原価の低減により、31億68百万円と、対前年同期比9.2%の増益となりました。同期間の店舗数は、20店舗を出店し、25店舗を閉鎖した結果、1,198店舗となりました。

#### [はなまる]

売上高は、203億83百万円と、対前年同期比14.0%の増収となりました。

増収の主な要因は、積極的な出店に伴う店舗数の増加であります。今後も、駅前や駅ナカなどの新立地およびショッピングセンター内への出店を進めてまいります。また、4月に実施した全店規模の大型販促「天ぷら定期券」を9月には吉野家とのコラボ企画として「はしご定期券」を実施したことに加え、3月よりリリースしたスマートフォン向け「はなまるうどん公式アプリ」が、11月には29万ダウンロードを達成し、お客様に対する新たなアプローチ方法としてご好評をいただきました。また、季節商品として、6月には讃岐うどんとともに香川県の名産品のひとつであるそうめんを使用した「うどん県のそうめん」を販売し、8月と10月には人気TV番組とのコラボ企画として「ビリビリサンラーうどん」を期間限定で販売し、9月と11月には四川風担々うどんフェアとして、「痺れ汁なし担々うどん」や「濃厚豆乳担々うどん」を販売するなど、お客様の様々なニーズにお応えいたしました。今後もお客様満足度の向上につながる販売促進および商品開発に努めてまいります。セグメント利益は、増収等により、12億14百万円と、対前年同期比50.5%の増益となりました。同期間の店舗数は、43店舗を出店し、9店舗を閉鎖した結果、464店舗となりました。

## [アーキミール]

売上高は、167億74百万円と、対前年同期比1.7%の減収となりました。

減収の要因は、しゃぶしゃぶ業態等における競争の激化によるものであります。既存業態の客数回復策として、前期までは毎月29日に開催していた「肉の日」を2日、9日の2日間に開催日を増やしたことや、全業態でお食事されたグラム数や商品に応じてスタンプを押印する「Gカード」を導入いたしました。また、新規顧客の獲得策として、6月から隔月で「フォルクス」と「ステーキのどん」において、「ステーキ食べ放題」キャンペーンを実施いたしました。加えて、「フォルクス」において女子栄養大学と「アジアフェア」を実施する等、様々なコラボ企画も積極的に行いました。引き続きお客様満足度の向上につながる販売促進および商品開発を行い、客数回復を図ってまいります。セグメント利益については、マネジメント力強化の為の営業組織の再編成等により、原価、人件費の適正化を図ったことにより、1億12百万円と、前年同期に比べ2億11百万円の増益となりました。同期間の店舗数は、4店舗を閉鎖した結果、180店舗となりました。

## [京樽]

売上高は、197億52百万円と、対前年同期比4.4%の増収となりました。

増収の主な要因は、「海鮮三崎港」を中心とした出店に伴う店舗数の増加であります。また、ご好評をいただいているテイクアウト事業における「中巻セール」や“ハレの日”の各セール、外食事業における「本まぐろ祭」「(赤皿)99円セール」、180円皿を充実させた「いっばち祭」等を効果的に実施したことにより、既存店売上高が堅調に推移したこと等であります。回転寿司業態では、産地指定した旬の食材を用いた商品を販売するなど差別化を図りました。また、フードコート立地の開拓に向け、店内釜炊きのお米が主役の丼物新業態「日本橋人形町 釜膳」を出店いたしました。セグメント利益は、増収等により、1億58百万円と、前年同期に比べ2億22百万円の増益となりました。同期間の店舗数は、17店舗を出店し、14店舗を閉鎖した結果、332店舗となりました。

## [海外]

売上高は、147億21百万円と、対前年同期比19.3%の増収となりました。

増収の主な要因は、アメリカ・中国の売上高が好調に推移したこと、積極的な出店により海外店舗数が増加したことに加え、前年第2四半期より吉野家シンガポールを直営化したこと等であります。セグメント利益は、アメリカや台湾で人件費が上昇したことや、出店や改装に伴う減価償却費が増加したものの、増収等により、10億88百万円と、対前年同期比19.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、77店舗を出店し、15店舗を閉鎖した結果、795店舗となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ15億38百万円増加し、1,164億85百万円となりました。これは主として、建物及び構築物(純額)が14億35百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ10億8百万円増加し、587億46百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が15億54百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5億29百万円増加し、577億38百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で0.3ポイント減少し49.1%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)は、既に公表しておりますものから修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,474	23,899
受取手形及び売掛金	3,727	4,053
商品及び製品	3,148	3,224
仕掛品	25	57
原材料及び貯蔵品	2,598	2,641
その他	3,627	4,527
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	38,600	38,401
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	28,362	29,798
その他（純額）	16,816	17,053
有形固定資産合計	45,178	46,851
無形固定資産		
のれん	1,537	1,457
その他	2,338	2,612
無形固定資産合計	3,875	4,070
投資その他の資産		
投資有価証券	4,335	4,291
差入保証金	15,599	15,613
繰延税金資産	1,797	1,667
その他	5,782	5,788
貸倒引当金	△222	△198
投資その他の資産合計	27,292	27,161
固定資産合計	76,346	78,083
資産合計	114,947	116,485

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,053	6,607
短期借入金	5,321	5,283
1年内償還予定の社債	750	-
1年内返済予定の長期借入金	7,397	6,586
リース債務	1,025	1,050
未払法人税等	463	645
賞与引当金	1,362	851
役員賞与引当金	71	18
株主優待引当金	296	414
資産除去債務	79	18
その他	10,708	11,556
流動負債合計	32,530	33,034
固定負債		
長期借入金	18,019	19,025
リース債務	2,788	2,459
退職給付に係る負債	624	628
資産除去債務	2,585	2,674
その他	1,188	923
固定負債合計	25,207	25,712
負債合計	57,737	58,746
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,551	11,545
利益剰余金	38,035	38,340
自己株式	△744	△711
株主資本合計	59,107	59,440
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	7
為替換算調整勘定	△2,353	△2,253
退職給付に係る調整累計額	△13	△13
その他の包括利益累計額合計	△2,363	△2,258
非支配株主持分	464	556
純資産合計	57,209	57,738
負債純資産合計	114,947	116,485

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	140,616	146,443
売上原価	50,712	51,150
売上総利益	89,904	95,293
販売費及び一般管理費	88,702	92,699
営業利益	1,201	2,594
営業外収益		
受取利息	80	61
受取配当金	183	187
賃貸収入	259	261
持分法による投資利益	150	104
雑収入	475	466
営業外収益合計	1,148	1,080
営業外費用		
支払利息	188	147
賃貸費用	184	176
雑損失	169	357
営業外費用合計	542	680
経常利益	1,807	2,993
特別利益		
固定資産売却益	1,485	2
関係会社株式売却益	-	20
特別利益合計	1,485	22
特別損失		
減損損失	238	315
契約解約損	19	48
災害による損失	24	-
特別損失合計	282	364
税金等調整前四半期純利益	3,010	2,652
法人税、住民税及び事業税	1,539	1,424
法人税等調整額	△217	△369
法人税等合計	1,321	1,054
四半期純利益	1,689	1,597
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,688	1,595



## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	1,689	1,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	3
為替換算調整勘定	△1,311	40
退職給付に係る調整額	3	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△398	66
その他の包括利益合計	△1,701	111
四半期包括利益	△12	1,708
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22	1,700
非支配株主に係る四半期包括利益	△34	8

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	72,299	17,690	17,048	18,796	12,339	138,174	2,442	140,616	—	140,616
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	716	195	19	119	—	1,052	434	1,486	△1,486	—
計	73,016	17,886	17,068	18,916	12,339	139,226	2,876	142,102	△1,486	140,616
セグメント利益 又は損失(△)	2,901	807	△99	△63	911	4,458	4	4,463	△3,261	1,201

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社7社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,261百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,275百万円、セグメント間取引消去134百万円及びのれんの償却額△120百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	72,788	20,193	16,723	19,624	14,721	144,051	2,391	146,443	—	146,443
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	765	189	51	128	—	1,134	436	1,570	△1,570	—
計	73,554	20,383	16,774	19,752	14,721	145,185	2,828	148,014	△1,570	146,443
セグメント利益	3,168	1,214	112	158	1,088	5,743	25	5,769	△3,175	2,594

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社8社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3,175百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,242百万円、セグメント間取引消去197百万円及びのれんの償却額△129百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。